

予報期間 12月2日から12月8日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 4日から5日は、発達した低気圧がオホーツク海付近にあり、大陸の高気圧が東シナ海から日本の南に張り出す。日本付近は北日本中心の冬型の気圧配置となる。
- 6日から7日にかけて、高気圧が日本の東へ移動し、気圧の谷が日本海に進む。
- 8日は、低気圧がオホーツク海に進む。大陸の高気圧が日本付近に張り出して冬型の気圧配置となる。

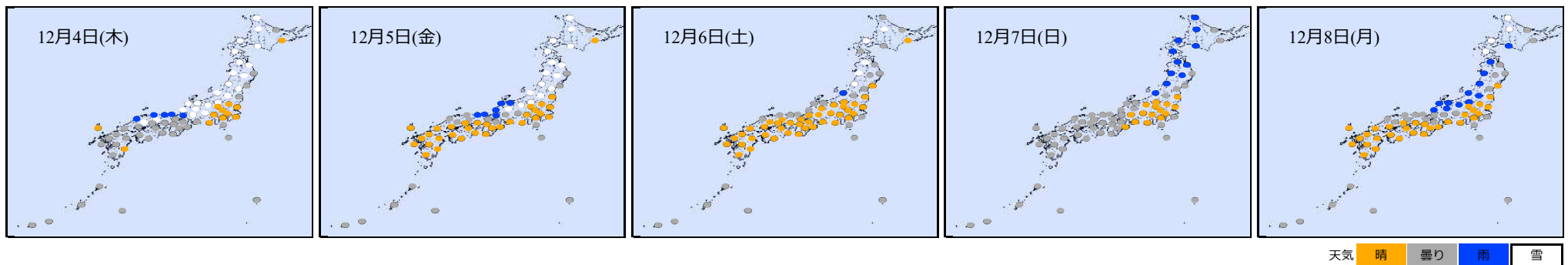
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 4日にかけて、冬型の気圧配置となる影響で、北日本から東日本にかけての日本海側を中心に荒れた天気や大雪となり、寒気の強まりの程度等によっては大荒れや警報級の大雪となるおそれがある。また、西日本日本海側でも積雪になる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

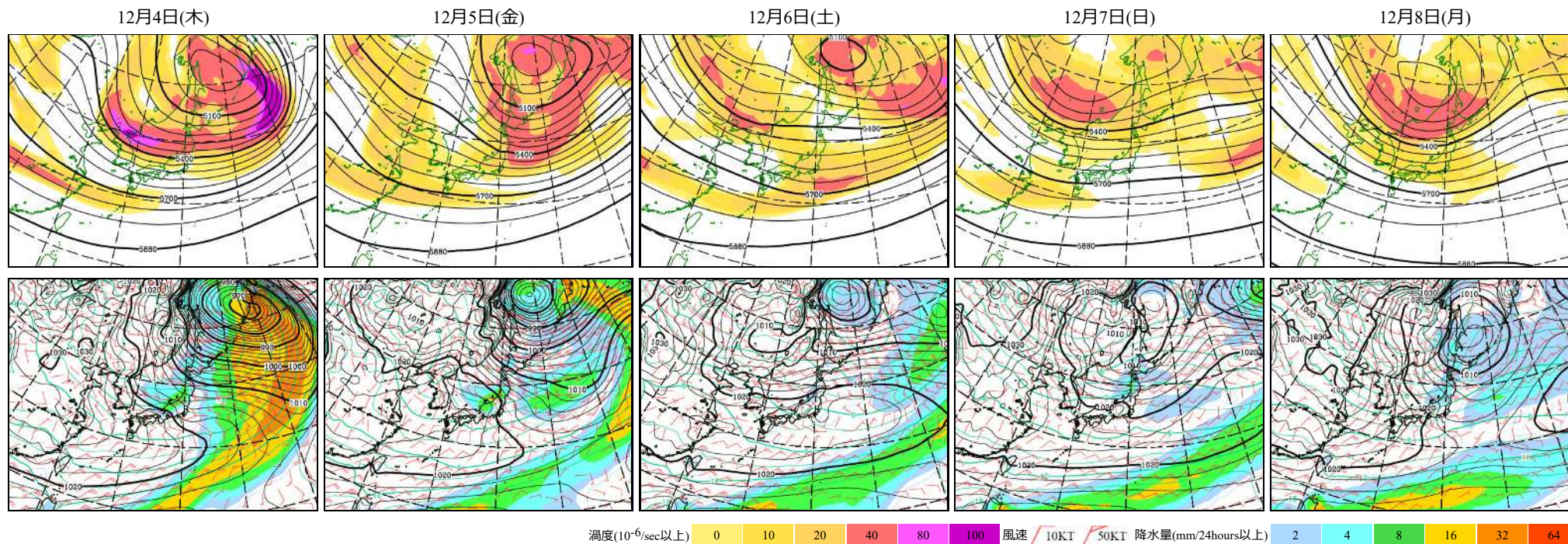
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

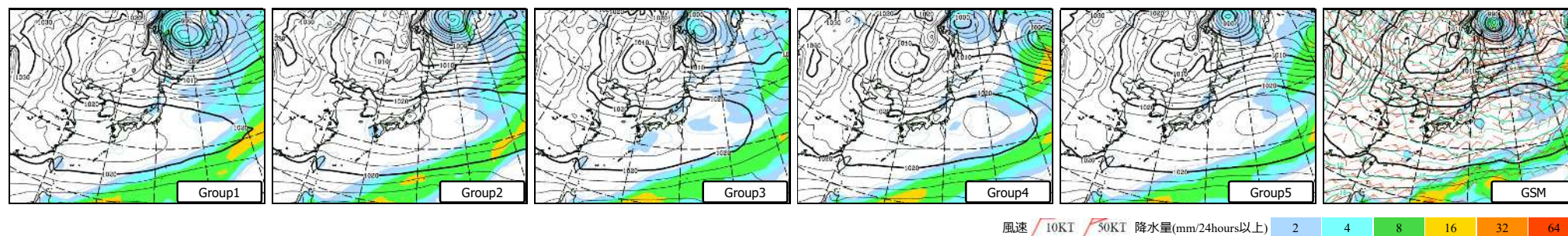


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月6日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。8日に日本海に進むトラフが早くなった。地上の気圧配置の予想も大きな初期値変わりはない。
- 各モデルともに、6日以降のトラフの予想に初期値変わりがある。トラフの進みは、日本モデルより海外モデルの方が早い。
- 6日は、GSMは北海道の北付近、ECMとNCEPは北海道東部付近に低気圧を予想する。ENSには、海外モデルに近い予想をするメンバーも含んでいるが、その数は少ない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。